

## 日本の力を信じて

陈 静  
CHEN JING

福島でも桜が咲き始めました。私は今その美しい桜を特別な思いで眺めています。あの大地震からもう1ヶ月が経ちました。今回の地震は、日本人にとってとても大きな試練となり、そして私達実習生にとっても、自分を見つめ直す大きなきっかけとなりました。

私は地震の数日後、福島原発がとても危険な状況であることをテレビで知りました。私の会社はその原発から35キロ位離れた所にあります。ですから原発に関して何の知識もない私達は、とても不安になりました。その様子は中国でも大きく報道され、家族は心配をして毎日何回も電話をしてきました。そしてどの家族も早く帰国するように説得をしていました。私の家族も例外ではありませんでした。そして私自身も父の悲痛な言葉を聞いて帰国することを決めました。

私は帰国を待つ時間の中で色々なことを考えました。私は昨年の夏に来たばかりです。日本に来る前には何百時間も日本語を勉強しました。そして会社ではたくさんの技術も勉強してきました。このまま家族の所へ帰れば、家族はきっと安心すると思います。でも今帰ってしまったらここまで頑張ってきた努力が、全て水の泡になってしまいます。私は帰国するか、それとも残るかとても迷いました。

私は迷っている中で震災の状況をテレビで見っていました。各地で被災した人達が避難所で苦しい生活をしていました。そこで見たのは被災した人達が、食べ物をもろう時でも争うことな

く、礼儀正しく冷静に行動していた姿でした。そして被災している人達は、互いに助け合いながらこの困難を何とか乗り越えようと一生懸命でした。中でも感動したのは、佐藤さんという人が、自分の家族よりも真っ先に私達と同じ実習生の命を救い、自らの命を落としてしまったことです。

私はこの報道を見て、強くショックを受けました。このように秩序を保ち、尊敬できる国をこのまま離れてしまっているのでしょうか？「私はまだ勉強しなければならないことがある」そう強く思った私は、悩んだ結果日本の国を信じてこのまま残ることを決めました。そしてその夜私はインターネットで父の顔を見ながら、日本に残る気持ちを話しました。私はその時父の顔がとてもやつれているように見え涙が出てきました。父は最後まで私が残ることに反対をしましたが、私の気持ちは変わりませんでした。私達の中でも私と同じ考え方の人は、日本に残ることを選択しました。

でも原発への不安が全然ないわけではありません。それには情報を冷静に判断し、あふれている風評に惑わされないことがとても重要です。今日本の人は復興のために全力を尽くしています。今の私ができることは、実習を最後まで真面目に続けて、ここでの貴重な経験を帰国した後で故郷の人達に伝えることだと思っています。私はこれからも日本の力を信じて頑張っていきます。